

支店長の わがまち紹介 第91回



松戸市「21世紀の森と広場」

松戸市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆様との密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は千葉県松戸市です。松戸支店長が松戸市長 本郷谷健次氏にお話を伺いました。

松戸市は第48回(2017年7月)の本コーナーで紹介させていただきました。改めまして、松戸市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

(取材日:2020年12月2日)

■ 約50万人が暮らす発展し続けるまち

都心から約20kmに位置する松戸市は、江戸時代、水戸街道の宿場町として発展し、大名の宿泊施設である本陣や脇本陣、一般宿の旅籠が軒を並べ、多くの旅人が行き交いました。また、松戸河岸は、江戸川水運の要衝としてにぎわいました。明治時代になると、水戸街道は国道6号として整備され、ますます交通量が増え、陸運もさらに発展を続けました。1896年に土浦-田端間の鉄道が開通して以降、路線が次々に増え、現在は市内に6路線23駅が整備され、都心まで約30分というアクセス性に優れたまちとなっています。

さらに、2018年6月、「東京外かく環状道路」の千葉区間が開通し、新たに松戸ICが設置されたことで、常磐自動車道や首都高速道路、東北自動車道、関越自動車道等への接続がスムーズになり、注目度も高まりました。また、羽田空港への高速



松戸市長 本郷谷 健次 氏



松戸支店長 湯浅 敏弘

バスも運行が開始される等、交通利便性はますます向上しています。

これだけ発展したまちですが、本市はまだ発展の途上にあると考えています。

本市の主要駅の1つであるJR常磐線松戸駅では、東西通路の拡幅と駅ビルの建設が始まっています。また、駅周辺の再整備も進めていく予定です。このように、本市は今後もインフラ整備が続くため、さらなる発展が予想されます。

本市は高いポテンシャルと魅力的なまちづくりによって人口が増え続け、2020年12月1日現在、住民基本台帳人口は498,575人と、もうじき50万人を超える勢いです。

2010年に市長に就任して以降、「市民のためのまちづくり」に精一杯尽力してまいりました。人口50万人のまちの舵取りを担う貴重な体験は、そう簡単にできるものではありません。応援してくださった方々には本当に感謝しています。

今年は就任から10年が経過した区切りの年です。今後、わが国では、人口が減少すると予想される未来に向かうことになりますが、本市の高いポテンシャルと魅力的なまちづくりで、人口を横ばいで維持できるよう、新たな気持ちで努めていきたいと思っています。

■ 共働き世帯が子育てしやすいNo.1のまち

人口減少社会において、女性の社会進出は重要です。そして、女性が男性と対等に働くためには、子どもを社会全体で育てる仕組みが欠かせません。

そのため、仕事と育児の両立に向けた取り組みとして、市内全23駅の駅前・駅ナカに小規模保育施設を設置したほか、指定幼稚園へバスで送迎する「送迎保育ステーション」を市内4つの駅近くに開設しています。都市部においては、今もなお待機児童が大きな問題となっていますが、本市では様々な取り組みの結果、5年連続で国基準の待機児童ゼロを継続しているところです。

また、松戸市立総合医療センターは、小児科、小児外科、小児脳神経外科、小児心臓血管外科、小児集中治療科からなる「小児医療センター」を設置し、県内の小児医療の中核的病院として専門的な医療を担い、広範囲から重症患者の受け入れを行っています。さらに、夜間小児急病センターでは365日18時から23時まで診察を行う等、緊急時にも対応できる小児医療体制を整えています。

乳児健康診査については、他市町村では通常2回のところ、本市は3回行うことで、乳児の健康管理に加え、虐待の発生を抑制する見守り体制を構築しています。このほか、妊娠期から保育・幼児教育、小中学校まで、保護者側と子ども側の両面から継続的にサポートする等、孤立しない子育てを意識した施策を行ってまいりました。

これらの取り組みが全国的に評価され、日経DUALが発表する「共働き子育てしやすい街ランキング」では、東京を除く「全国編」で2017年と2019年に1位、東京を含む「総合編」でも2019年に2位を獲得しています（なお、取材後、松戸市は2020年東京を含む「総合編」及び「全国編」で1位になりました）。

子育て環境の整備に力を入れることは、消費活動や税収増加等、まちの活性化につながる「未来への投資」だと考えています。今後も引き続き、子育てにやさしいまちづくりを進めていきます。



託児付きコワーキングスペース

■ 歴史伝統を守りつつ、国内外のアーティストが行き交う文化・芸術の“トランジットポイント”へ

本市に所在する「戸定邸」は、徳川昭武が明治17年に建設し、後半生を過ごした場所です。建物は国の重要文化財、庭園は国の名勝に指定され、四季折々の美しさで訪れた人を魅了しています。

昭武は、9代水戸藩主徳川斉昭の18男で、江戸幕府最後の将軍徳川慶喜の実弟にあたり、1867年、わずか13歳で将軍慶喜の名代としてパリ万博に派遣されました。日本でいわゆる大政奉還が起こったことで、パリでの留学生生活を中断して帰国、最後の水戸藩主となりました。

2021年2月スタートのNHK大河ドラマの主人公渋沢栄一は、昭武の随員としてパリ万博に同行しています。昭武と渋沢、2人の視点を探しながら、明治に想いを馳せる場所として本市を訪れ、散策していただければと思います。

また、2013年に始動した「PARADISE AIR」は、かつて松戸宿に訪れた文人画人が、宿泊料代わりに作品を残したという逸話から「一宿一芸/One Stay One Art」をコンセプトに、国内外のアーティストに一定期間滞在場所と制作場所を提供し、アート活動を支援する取り組みです。始動から8年を迎え、現在までに滞在したアーティストは200組以上にのぼります。彼らは皆、この取り組みに感銘を受け、世界へ向けて独自に情報発信をしてくれています。その結果、「PARADISE AIR」の知名度が高まると同時に多くのアーティストより賞賛の声が寄せられ、これまでに、約100の国・地域から3000組以上の応募をいただくまでに

なっています。今後も国内外のアーティスト達が行き交う文化・芸術の“トランジットポイント”として新たな歴史を積み重ねていくとともに、市民との交流を増やし、さらに深く松戸の地に文化・芸術を根付かせていきたいと考えています。

■ 創造都市で未来を描く

産業の空洞化と地域の荒廃に悩む欧米の都市では、1980年代に始まった「欧州文化首都」事業等の「芸術文化の創造性を活かした都市再生の試み」が成功を収めました。現在では、世界の多くの都市で行政と芸術家、文化団体、企業、大学、住民等が連携し、同様の活動を行っています。

徳川昭武は、常に新しい文化や技術を暮らしに取り入れたグローバルな先駆者の一人で、従来の枠にとらわれない庭園を造りました。そして、戸定邸から始まった“革新のバトン”は、市内で活動する現代のクリエイターへも受け継がれています。

2018年から始まった、科学・芸術、自然をつなぐ国際フェスティバル「科学と芸術の丘」もその1つです。「戸定が丘歴史公園」を中心とした市内に広がる美しい自然の中で、毎年2日間にわたり、世界最先端の研究機関や研究者、アーティストによる特別展覧会、トーク、ワークショップが開催されています。「科学と芸術の丘2020 GARDEN OF CREATIVITY—はじまりの庭—」では、改めて、私達の生き方、社会のあり方、そして自然との関係性を見つめ直す機会になったと感じています。本市も、かつて欧米で成功を収めた「芸術文化の創造性を活かした都市再生の試み」を実践し、まちづくりに活かしていきたいと考えています。

■ 働くための環境づくり

必要なものがインターネットで手に入る時代となり、まちづくりも時代を反映した施策が必要になっています。働くための環境づくりもその1つです。

そこで、本市は2019年4月、ビジネスとアートの融合をデザインコンセプトとする創業支援施設「松戸スタートアップオフィス」を開設しました。

当施設には6つの個室、5つのブース、座席自由のコワーキングスペースが備えられ、創業者が用途や予算に応じて、住所利用、法人登記、電話番号利用等の機能を選ぶことができます。さらに、施設には創業に詳しいインキュベーションマネージャーを配置し、創業者の状況に合わせた幅広い

相談に応じるほか、経営に必要なテーマのセミナーや創業者とアーティストのマッチングイベント等を実施しています。



松戸スタートアップオフィス

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、テレワークやウェブ会議等が浸透し、働き方も大きく変わりました。今後はこのようなスペースをさらに整備していくとともに、創業者に対する丁寧な伴走支援を行うことで、将来、本市の経済に貢献する事業者を育成していきたいと考えています。

■ 筑波銀行に期待することをお聞かせください

新型コロナウイルス感染症は企業の事業環境を大きく変化させ、その変化は一時的でなく恒久的なものとなる可能性があります。

中小企業がその変化に対応し、事業を継続させるためには、事業者自身の経営努力はもちろん、支援機関の丁寧な指導や支援で各社の稼ぐ力を高めていくことが必要です。さらに、支援機関は単独ではなく密に連携し、地域全体の支援の質を高めることが重要だと考えています。そのため、御行には、中小企業支援の連携体制について、共に検討する機会への参画を期待しています。

また、地域経済のにぎわいを創出することは本市の重要なテーマであり、コロナ終息後は、疲弊した地域経済を復興させるため、商店会や商工団体等が行うイベント等に対し、市として積極的に支援していきたいと考えています。

そこで、地域経済の要である金融機関にも後押ししていただくとともに、可能な限り催しの企画段階から参画いただき、共に地域を盛り上げていただくことを期待しています。

松戸市公式HP



写真提供：松戸市